



会報 No.33

平成22年4月30日発行
編集・発行／広島オーストリア協会
〒730-8552 広島市中区白島北町19番2号
広島ホームテレビ 秘書室
TEL(082)221-4964 FAX(082)221-4905



世界遺産 ハルシュタット



広島オーストリア協会 会長
在広島オーストリア名譽領事

橋本宗利

会員の皆様にはひごろ広島オーストリア協会の活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、昨年度の広島オーストリア協会では、6月に総会、7月にビアホールの会、9月に「ウィーン交響楽団によるトロンボーン四重奏団広島公演」、12月に「近藤嘉宏クリスマスリサイタル」、クリスマス例会、3月に講演会と、当初計画通りの事業活動を行いました。

特に12月のクリスマス例会には、トマス・ロイドル公使も列席され、篠笛、琵琶、箏、雅楽による幻想的なコンサートや、お楽しみ抽選会などが行なわれ、大盛況のうちに閉会することができました。

また昨年度は日本とオーストリアの外交関係樹立140周年を記念する年にあたり、「日本オーストリア交流年2009」と銘打った文化・芸術・観光をはじめとした種々の交流事業が両国で実施されました。このメモリアルイヤー記念行事の一環として、当協会に於いても広島市役所内に保存されている「被爆石」をもとに平和モニュメントを構築し、これをウィーン第16区役所内に恒久的に設置するプロジェクトを実施しました。9月9日にはウィーンに於いてその完成披露式典が行なわれ、当協会からも代表団が参加しました。

本年度も日本とオーストリア、広島とウィーンの友好関係が一層増進されるよう活動の充実に努めて参ります。会員の皆様の積極的な行事への参加をお願い申し上げます。

総会報告



総会



- 日 時 平成21年6月9日(火)18:00~20:00
- 場 所 ANAクラウンプラザホテル広島3階オーキッド
- 出席者 108名



広島オーストリア協会の通常総会を、ANAクラウンプラザホテル広島で開催しました。今回は来賓としてオーストリア大使館ミヒヤエル・ハイダー文化担当参事



野坂理事



平成21年度事業報告

平成21年度理事会・総会

6月9日(火) ANAクラウンプラザホテル広島 (参加者: 108名)

ピアホールの会

7月24日(金) 広島アンデルセン (参加者: 83名)

ウィーン交響楽団によるトロンボーン四重奏団公演公演
9月18日(金) 広島ALSOKホール (入場者: 1,116名)

クリスマス例会
12月2日(水) リーガロイヤルホテル広島 (参加者: 145名)

近藤嘉宏クリスマスリサイタル
12月12日(土) フェニックスホール (入場者: 801名)

講演会
3月12日(金) 広島ホームテレビ (参加者: 67名)

平成22年度活動予定

平成22年度理事会・総会

6月8日(火) ANAクラウンプラザホテル広島

講演会&ピアホールの会

8月 広島アンデルセン

デザートを楽しむ会

10月 パッケンモーツアルト

クリスマス例会

12月 リーガロイヤルホテル広島

ウイーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団ニューイヤー・コンサート2011
1月17日(月) 広島市文化交流会館

平成21年度役員(平成21年6月9日現在)

役員	氏名	現職
会長	橋本宗利	(株)広島ホームテレビ会長
副会長	吉原誠	マツダ株式会社ボレート業務推進本部本部長兼CSR推進部長
〃	不破亨	湧永製薬(株)副会長
〃	光井安子	音楽家
専務理事	松原一彦	(株)広島ホームテレビ取締役総務局長
理事	安倍寛信	三菱商事(株)中国支社執行役員支社長
〃	ゲオルグ・ペスティンガー	駐日オーストリア大使館一等書記官
〃	安東善博	(株)中国放送社長
〃	川口英二	(株)テレビ新広島常務取締役
〃	紙元秀樹	財ひろしま国際センター専務理事
〃	熊平雅人	(株)熊平製作所会長

役員	氏名	現職
理事	後藤文生	広島テレビ放送(株)会長
〃	スティーブン・ロドリバー	財広島平和文化センター理事長
〃	長松勇	広島エフエム放送(株)会長
〃	野坂文雄	(株)もみじ銀行頭取
〃	濱幾太郎	(株)広島ホームテレビ社長
〃	林克士	福山商工会議所会頭
〃	福嶋正純	広島大学名誉教授
〃	望月成二	エビス電工(株)社長
〃	山本一隆	(株)中国新聞社副社長
監事	志水省夫	(株)新日放社長
〃	荒川昌治	中国電力株顧問

活動報告

ピアホールの会

- 日 時 平成21年7月24日(月)18:00~20:00
- 場 所 広島アンデルセン4階スカンジナビアホール
- 出席者 83名

当日はあいにくの雨模様となっていましたが、83名の会員様にご出席いただきました。はじめに不破亨副会長が「オーストリアと日本が修交140周年という大変記念すべき年を迎え、両国の関係はますます深いものとなっている」と、続いて岸田文雄顧問が「IAEA(国際



不破副会長



原子力機関)の事務局がウィーンに設けられるなど、オーストリアはEUの中心に位置する国として、存在感がますます大きくなっている」と挨拶されました。

また、姉妹のマリンバデュオ「瞳&梓」がクラシックからポップスまで幅広いジャンルの曲を、心地よい音色で演奏し、出席者を魅了しました。



岸田顧問



クリスマス例会

- 日 時 平成21年12月2日(水)18:00~20:00
- 場 所 リーガロイヤルホテル広島4階クリスタルホール
- 出席者 145名

今回のクリスマス例会は10月に赴任されたトマス・ロイドル公使も列席され、また145名もの会員様に出席いただき、大盛況となりました。



会ではウィーンで行なわれた平和モニュメント除幕式に出席した当協会会員の吉中康麿さんと田中勝邦運営委員が、スライドを上映しながら、当日の模様を報告しました。その除幕式でも演奏を披露した篠笛奏者の福原一間さん、薩摩琵琶奏者の大野友梨子さん、箏・十七絃箏奏者の柳記彌栄さん、歌・雅楽の木本いず美さんの4名が幻想的で迫力のある楽曲を熱演しました。

会の終盤では恒例のお楽しみ抽選会が行なわれました。法人会員様に多数賞品をご提供いただいたおかげで、出席者の5人に1人が当選するなど、皆様に大変喜んでいただけました。



トマスロイドル公使



ウィーン交響楽団によるトロンボーン四重奏団公演

■日 時 平成21年9月18日(金)19:00~21:00

■場 所 ALSOKホール

吹奏楽と聞いて、どんな楽器を思い浮かべますか？トロンボーンは、花形のトランペットやフルート、クラリネットと比べると、やはり脇役。演奏の中でも、主旋律というよりも、メロディーの盛り上げ役を担うことが多い楽器です。はっきり言って地味な楽器…。そんなトロンボーンの四重奏団の演奏会とはどんなものなのか？興味津々でホールに入ると…ステージ上には譜面台が4つあるだけ。椅子すらない実にシンプルなステージに、主催者としては、これから始まるコンサートに不安を覚えながら開演を迎えた。

演奏が始まってまず驚いたのは、4人のすばらしいハイモニーと演奏技術でした。旋律、盛り上げ役など、それぞれの役回りを4人が見事に共鳴あって演奏していました。また、1つの楽器なのに、高音から低音まで



閉演後のサイン会



近藤嘉宏クリスマスリサイタル

■日時 平成21年12月12日(土)

■場所 フェニックスホール

“ウィーンを奏でる”というテーマで行われた近藤嘉宏ピアノリサイタル。プログラムの第1曲目に選んだのはモーツアルトの「ソナタ」。明るい曲調が多いモーツアルト作品の中では珍しい短調で、いつしか心静まり、演奏に引き込まれるような幕開けとなりました。その後は、ベートーヴェンの大曲・「熱情」へと続き、後半はショパンの小品を次々と軽快に弾き進みました。あっという間の2時間。毎年近藤さんの演奏を間近で見ている私も、毎回新しい感動を覚えています。

さて2010年はショパン生誕200周年の「ショパン・イヤー」さらに「リスト・イヤー」と続く、ピアノファンにとっては注目すべき年です。そんな中、11月26日(金)に近藤嘉宏公演が決定しました。近藤さんの進化し続ける技巧と、実直さや愛情があふれ出る演奏。今回は協会主催の行事ではありませんが、ご興味のある方は是非足を運んでみて下さい。



ウィーンでの「平和モニュメント」除幕式に参加して

吉中 康麿

ル ウィーン市長・田中日本大使を始めとして市民約400人が参加しました。式典は軍吹奏楽団の演奏によって始まり、7人の来賓が次々と挨拶をした中でウィーン市長の挨拶は心に深く残りました。ドイツ語なので私達には、その時は全く話の内容を理解することはできませんでしたが、自らが折った折り鶴を握りしめ、話を進めていくうちに目が充血し、時に滲み出る涙を拭いながらの感情溢れる挨拶には、ドイツ語の解らない私達にもウィーン市長の熱い思いが心に響きました。

語る人の真摯な態度、心をこめた話し方で人の心を動かすことが出来る。たとえ言葉は通じなくても。私達は素晴らしい感動に出会うことが出来ました。

私も秋葉広島市長から託されたメッセージを代読し「力を合わせれば核は廃絶できる。きっとできる」と一言ごとゆっくりと心を込めて締めくくりましたが、どれだけ出席者の心に届くことが出来たでしょうか。

また、広島オーストリア協会を代表して田中勝邦運営委員が「世界平和と刻まれた広島の被爆石が、平和モニュメントとして設置されたことを感謝します」という橋本会長のメッセージと、被爆少女・佐々木サダコさんの実兄佐々木雅弘さんのメッセージを代読しました。

それぞれの挨拶が終わり、いよいよ除幕式。ウィーン市長、フランツ・プロコップ16区区長と私の3人で、「平和モニュメント」の除幕をさせて戴きましたが、見事に生まれ変わった被爆石に刻まれた「世界平和」の文字を見た瞬間、胸に込み上がるものを感じました。

その後「プロジェクトチーム」の一員として参加した榎記彌栄さん(琴)・福原一間さん(篠笛)・大野友梨子さん(薩摩琵琶)・木本いず美さん(雅楽)の4人による平和への祈りを込めた「千の鶴」の演奏が披露され万雷の拍手が会場に響き渡りました。

式典の締めくくりに、両国の国歌斉唱があり、異国の地で広島市民の代表として「君が代」を聴くことができ

感動の除幕式典

今回のプロジェクトは、3年前に遡ります。当時のオーストリア駐日大使であったペーター・モーザー氏が平和記念資料館を見学した時、そこに展示されていた一冊の本を偶然に目にしたことが、モニュメント建立へのスタートでした。前大使は、「サダコは生きたい」というタイトルの本の著者がウィーン出身の著名作家カール・ブルックナー氏であることに注目し、共に戦争の悲惨な歴史を持つヒロシマとウィーン、そして日本とオーストリアとの友好関係を再構築したいと決意したこと端を発します。

氏の働きかけにより「記念碑建立プロジェクト」がスタート。広島オーストリア協会とウィーン喫日協会が全面的に協力することになり、その記念碑に被爆した旧広島市役所庁舎の敷石であった御影石を使用したいと秋葉広島市長に要請したところ快諾を得て、800キロの被爆石が広島から運ばれてウィーンへ送られました。

そして平成21年6月、ウィーン市から広島オーストリア協会に、「平和モニュメント」除幕式典への招待状が届きました。広島オーストリア協会では出席する方向で参加者を募集し準備を進めていましたが、諸般の事情により出席が困難になり、急遽「ウィーン平和プロジェクト実行委員会」を立ち上げ式典に参加することになったものです。

平成21年9月9日、ウィーン市内16区オッタークリング区役所前広場で行われた「平和モニュメント」の除幕式に、「ウィーン平和モニュメントプロジェクト」のメンバー14名は広島オーストリア協会橋本会長代理の田中勝邦運営委員と一緒に出席しました。

式典当日、澄みきった青空の下、ミヒヤエル・ホイペ



ミヒヤエル・ホイペル ウィーン市長

たのは、生涯心に残る思い出となりました。

式典終了後、軍吹奏楽団の先導で参加者全員がオッタクリングビル本社まで行進、同社「祝祭ホール」での、祝賀記念・歓迎パーティーに出席し、ウィーン市長やカール・ブルックナー氏の娘マリアンネ・マデーレさん達と懇親を深めました。

また、式典の最中に私達は自然が与えてくれた素晴らしい現象に遭遇することが出来ました。雲ひとつ無い青空に、突然くっきりと「十字(クロス)」が描かれたのです。飛行機雲によって生まれた現象と思われますが、「十字」はウィーン市の市章でも有り、まさに「平和モニュメント」の完成を天が祝ってくれたような光景でした。



日本の伝統芸術を各地で披露

広島を代表する4人のアーチストはこの機会を活用して意欲的に演奏活動を行いました。ウィーン国連本部・日本大使館・区役所ホールそして式典会場の4か所であわせて約1000人の聴衆が日本の伝統音楽に酔いしれました。演奏終了後は多くの人が楽器の周りに集まって楽器に触れたり、いろいろな質問をしていましたが演奏者たちは、丁寧に質問に答え、一緒に写真撮影に応じるなど立派に文化交流の親善大使の役割を果たしました。

今回の演奏のメイン曲「千の鶴」(柳記彌栄さん作詞・作曲)は、日本出発前に一度だけ4人でリハーサルをしただけでしたが、本番では見事調和の取れた演奏に出来上がっていたのには驚きました。さすがプロの技でした。

イップ常子さん大活躍

今回のプロジェクトが大成功に終わったのは、参加者全員それが自分の役割をきちんと認識し、与えられた役を確実に果たすというチームワークの良さがあったからこそだと思います。

しかし眞の立役者は、広島出身でウィーン在住のイッ

プ・常子さんと当協会運営委員田中勝邦さんの存在でしょう。文化や習慣の異なる中での交渉でかなりの糾余曲折があったと聞きます。「もう止めよう!」と何度も厳しい言葉のやりとりが電話で、或いはメールで為されたとも聞いています。最終的には彼女と彼の情熱と粘りが無かったら、今回のプロジェクトは途中で挫折したことでしょう。イップ・常子さんに心から感謝申し上げたいと思います。



左から大坂さん　イップさん　マデーレさん　著者

何度訪ねても魅力一杯のウィーン

オーストリアは、歴史と文化そして豊かな自然、美味しい食べ物。何度訪れても飽きることの無い魅力一杯の国です。特にウィーンは、古い建物を大切にしながらも整備された街並み、一人で散策しても安心な治安の良さ、美術館・博物館そして毎夜いろいろなところで開催される音楽会、何度も何度も訪ねたい都市のひとつです。

そうした意味では、広島オーストリア協会は、オーストリアの素晴らしさを多くの人に紹介し、一方でオーストリア境内協会も日本の魅力を紹介していくという大切な役割を担っており、両協会の友好関係の充実に夢が広がります。



世界遺産 シェーンブルン宮殿

退任のご挨拶



オーストリア大使館商務部
商務参事官
エルンスト・ラーシャン

貴協会ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。さて、本年6月30日をもちまして、7年の在日オーストリア大使館商務部での勤務が終了となります。在任中は広島にも何度も伺い、皆様には大変お世話になりました。広島オーストリア協会は、定期的なオーストリアへの旅行等を通し、日本でも最もさかんに活動されています。

2008年には、貴協会のクリスマスパーティーにお招きいただきという光栄にあずかり、貴会員の方々のオーストリアへのご関心の深さを強く感じ取ることができました。また、広島といえば、やはり原爆の酷さを今日も物語る原爆ドームの印象が思い出されます。原爆ドームは同時に、戦争はあらゆる面において人権を傷つけ、踏みにじるものであるということを訴えています。原爆によって犠牲になった、何万もの市民の命は、時に、戦略であったという理由で片付けられてしまいますが、

彼らはもう二度と戻ってこないので。広島は、戦争の愚かさを後世に伝える街として、私の胸に強く刻まれました。退職後は、オーストリアで家族と共に新しい生活を送ることになります。皆様も是非オーストリアへ遊びに来て下さい! 今後も広島の皆様とオーストリアの交流がさらに発展することを心より願っております。



投稿をお待ちしています

- ①オーストリアの旅の思い出・生活・習慣・芸術のこと・オーストリアの友人の話・その他何でも結構です。会員の皆さまからのお寄せを募集します。お名前とご連絡先を明記して協会事務局へお送り下さい。原稿用紙400字詰3枚以内、関連する写真（あなたと一緒に写っていればなお結構）を1~2枚付けて下さい。ただし事務局で手直しさせていただくことがあります。掲載分にはささやかなプレゼントを送らせていただきます。（ご投稿の写真は後日お返しいたします）
- ②会員が主催するコンサートなど催し物の情報、会員の動向・消息・会報への提言・協会への希望も、できれば①と同様、お名前などご記入のうえお送り下さい。なお会報への提言（400字程度）・協会への希望は住所のみ、無記名でも構いません。
- ①、②どちらも原稿の返却はいたしませんのでご了承下さい。

*広島オーストリア協会でお預かりしている、会員の皆様の個人情報につきましては、広島オーストリア協会の運営に関する利用するもので、それ以外の目的には利用致しません。

広島オーストリア協会主催 クラシックコンサート

広島ホームテレビ開局40周年記念

ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団 ニューイヤー・コンサート2011



2011年1月、広島市文化交流会館（旧広島厚生年金会館）で「**ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団**」のニューイヤーコンサートが開催されます。

「**ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団**」は1844年オーストリア第2の国歌といわれる「美しき青きドナウ」の作曲者でワルツ王のヨハン・シュトラウス2世によって編成されたオーケストラです。伝統に裏打ちされた優雅で華麗な演奏はウィナーワルツの真髄です。

今回の公演でも格調ある数々の名曲を新年にふさわしい晴れやかな雰囲気の中奏でてくれるでしょう。

広島オーストリア協会では会員の皆様にこのコンサートのチケットを特別価格で販売いたしますので是非ご期待ください。

日 時 2011年1月7日(金)19:00開演(予定)

場 所 広島市文化交流会館(旧広島厚生年金会館)

入場料 未 定

主 催 広島オーストリア協会・広島ホームテレビ

企 画 株式会社 プロアルテ ムジケ

